資料１

原子力安全の継続的改善に向けたJANSIの取組み

～たゆまぬエクセレンスの追求～

2026年11月18日

一般社団法人　原子力安全推進協会

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

1. JANSIは何を目指しているのか ～ミッション～

ミッション

「日本の原子力産業界における世界最高水準の安全性の追求」
～たゆまぬエクセレンスの追求～

事業者の将来ビジョン

自主的継続的安全性向上の取組みを定着させることにより、世界最高水準の安全性・信頼性を達成し、その状態を維持、継続している。

JANSIの将来ビジョン

世界のエクセレンスの権威として、独立した立場から、事業者を牽引している。

将来ビジョンを実現する10年戦略



（ミッション→将来ビジョン→10年戦略）

JANSI事業運営の5原則

1. CEO の関与	事業者社長が、ガバナンス、オーバーサイトを含むJANSI の運営に積極的に関わる。
2. 原子力安全に重点	原子力安全が最重要である。発電所運営における「エクセレンスの基準」の達成に重点を置く明確なミッションがある。
3. 産業界からの支援	産業界はJANSI の活動に全面的に参画し、人材等のリソース面でJANSI を支援する。
4. 責任	事業者は、各自の発電所の安全について責任を有するとともに、産業界全体の安全について、JANSI への責任を果たさなければならない。
5. 独立性	JANSI は産業界には依存するものの、個々の事業者、事業者グループからの独立性を有している。

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

1. JANSIは何を目指しているのか

～JANSIのガバナンスとオーバーサイト～

社員総会
（126社）

監事

理事会

- 会　長　ウィリアム・エドワード・ウェブスター・ジュニア
- 理事長　加藤 功
- 原子力事業者※の社長

※電力9社、日本原電、電源開発、日本原燃





執行体制

職員数：約200名
内、プロパー職員：約150名

- 会　長
- 理事長
- ・業務推進評価室※
- 常務（事業運営）
- 常務（評価・支援）
- ・企画部　・総務部　・人材育成部　・安全基盤部
  ・パフォーマンス向上支援部　・ピアレビュー計画部　・技術支援部

※JANSI活動について、セルフアセスメントおよび事業者との合同アセスメントを実施

国内アドバイザリー委員会

ANAウイングス株式会社
取締役会長　亀田清重

一般社団法人 日本動力協会
会長　廣瀬　直己

三菱重工業株式会社
顧問　湯浅　悟郎

東京大学医学部附属病院
放射線科がん治療医
国際医療福祉大学
教授　中川　恵一

原子力発電環境整備機構
理事長　山口　彰

特定非営利活動法人
保安力向上センター
常務理事　若倉　正英

国際アドバイザリー委員会

EDF社 原子力監査部門長
フランソワ・ヴィノルド

元NRC 運営総局長
ビクター・マクリー

WANO議長
ホセ・ガーゴ

元TVA社 社長
ジェフ・ライアッシュ

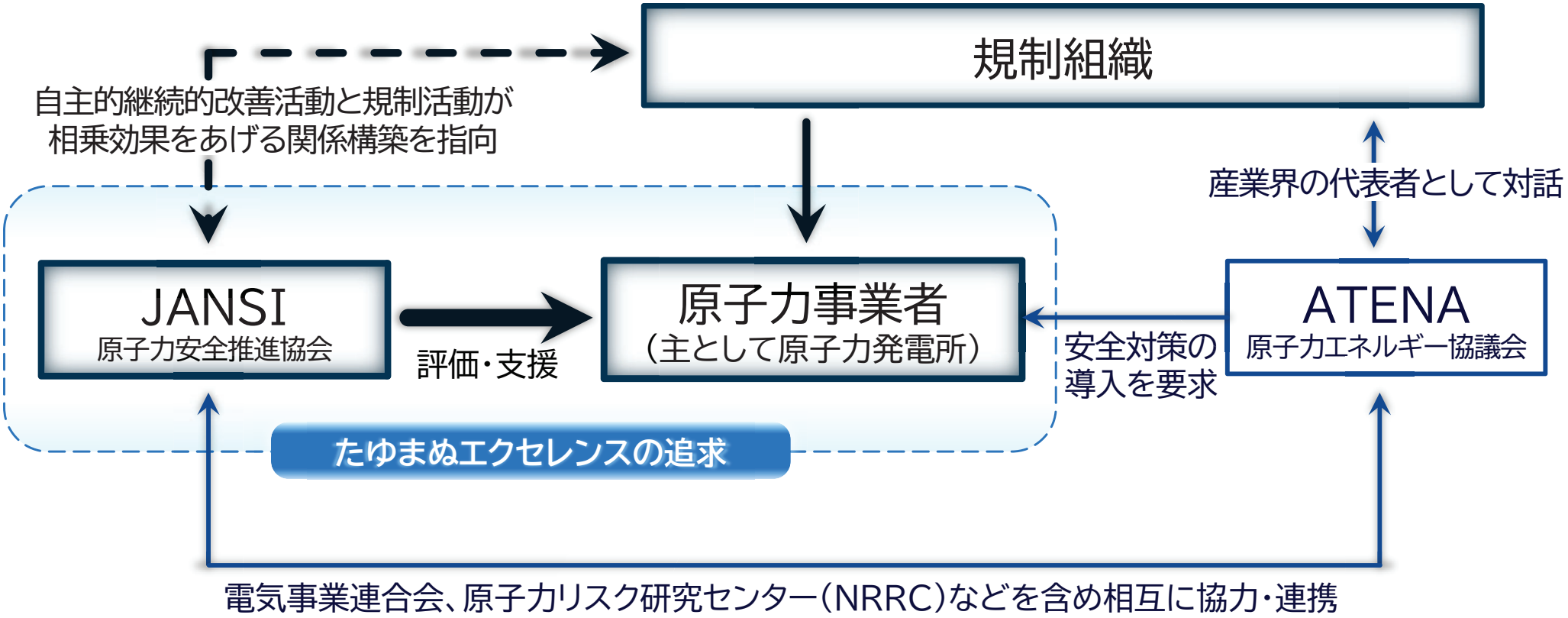
元ブルース・パワー社 社長
マイク・レンチェック

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

1. JANSIは何を目指しているのか

～原子力産業界におけるJANSIの役割～

- JANSIは、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえ、原子力発電所の自主的継続的改善の取組みを独立した立場で牽引・支援している

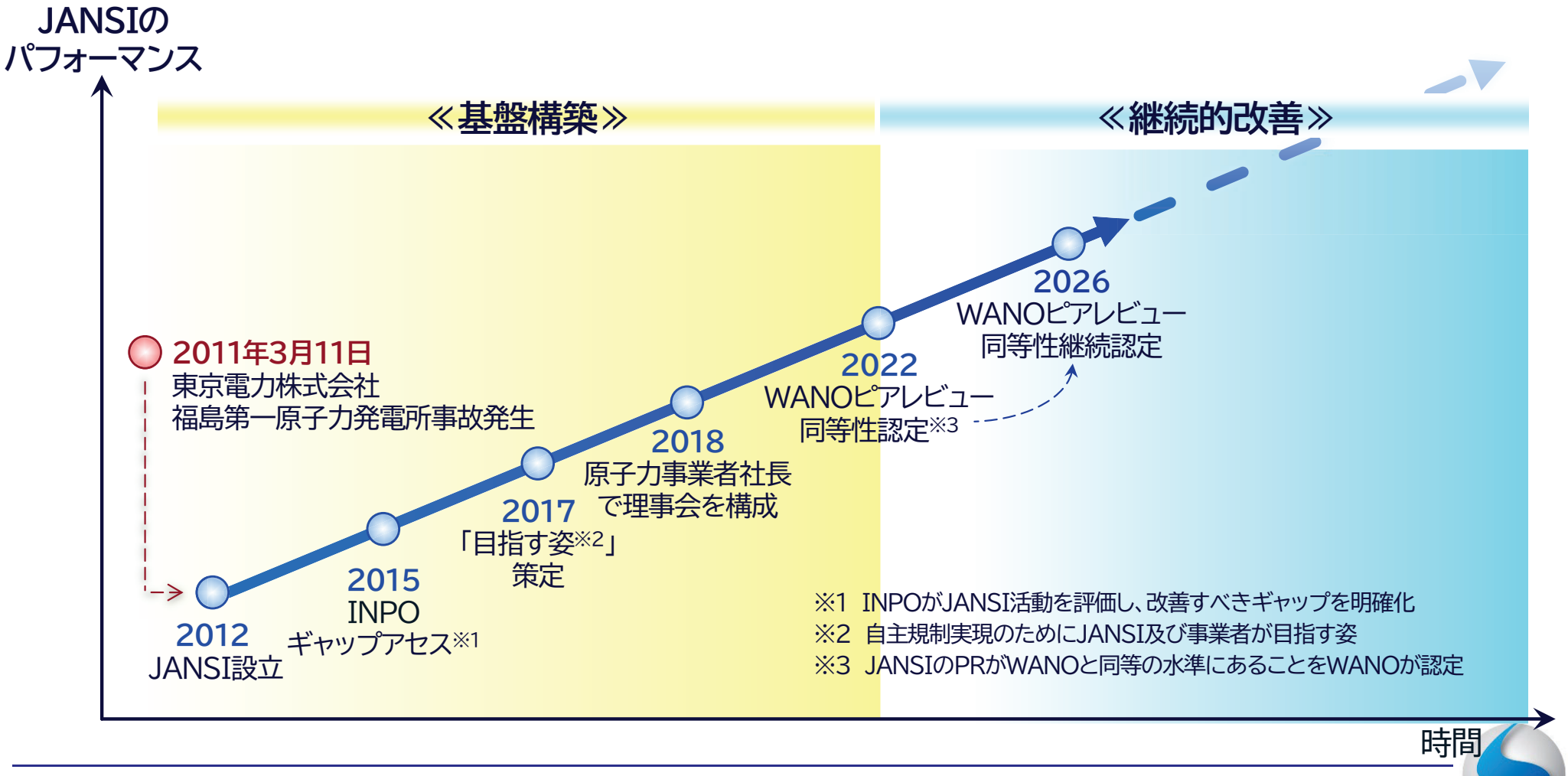


Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

1. JANSIは何を目指しているのか

～JANSI設立時からの歩み～

- JANSIは、原子力発電所の安全性向上活動を効果的、効率的に牽引するため、自らのパフォーマンスを継続的に改善している



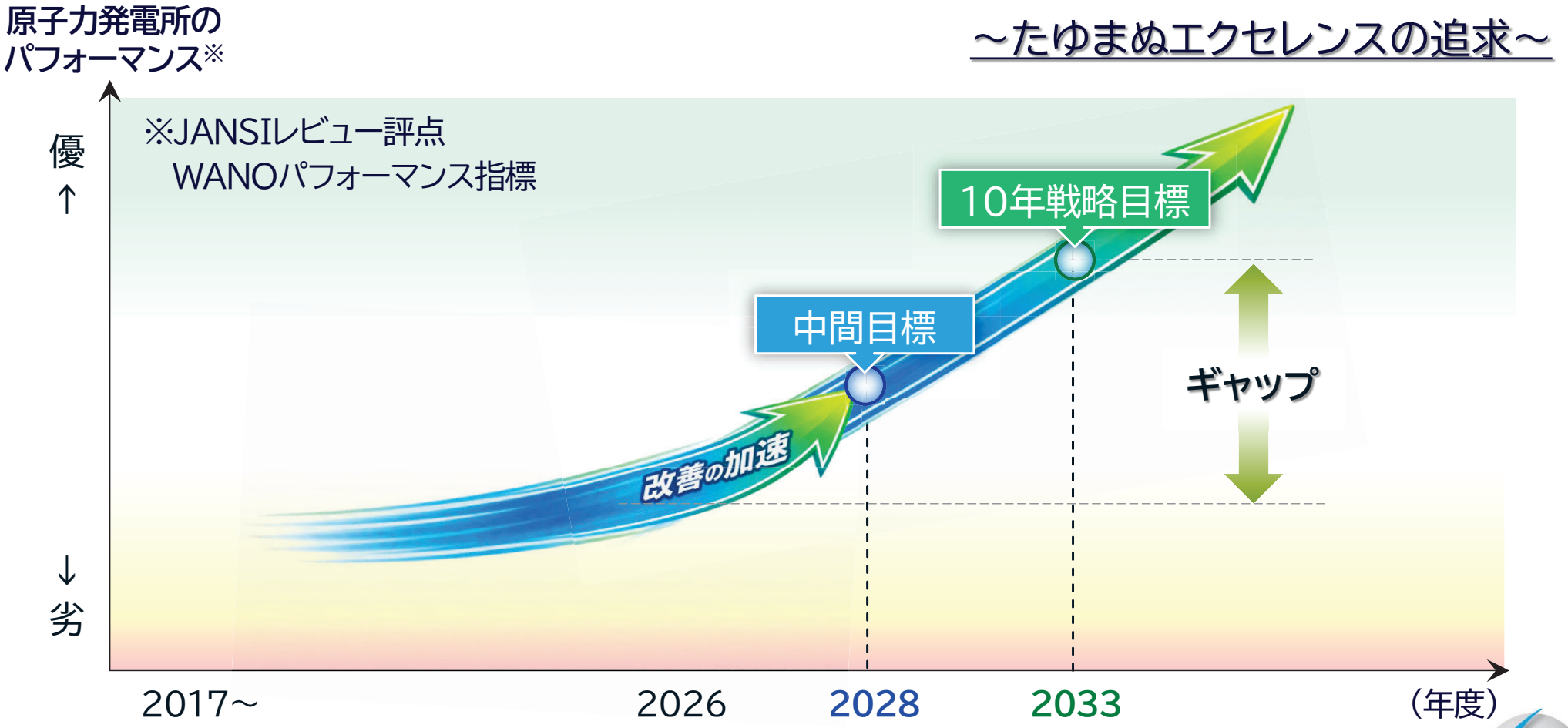
Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

1. JANSIは何を目指しているのか ～現状と目標～

10年戦略目標を達成するためには、

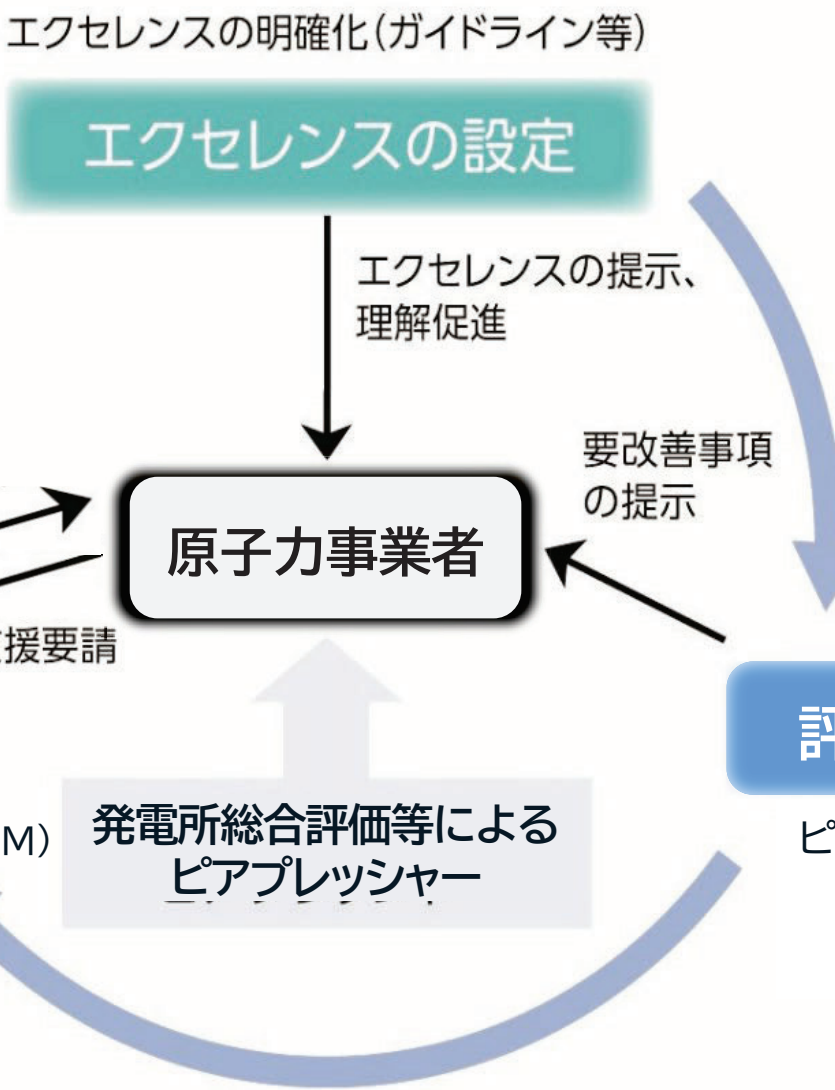
“事業者の一層の改善努力” と “JANSI活動の継続的改善” が必要

～たゆまぬエクセレンスの追求～



Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

2. JANSIの具体的活動 ～JANSIの活動サイクル～



①日常的パフォーマンス監視・評価（PMCM）
②安全文化醸成活動の支援
③運転経験（OE）情報の活用
④リーダーシップ研修の提供
⑤個別の発電所支援　　など

ピアレビュー　など

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.



2. JANSIの具体的活動 ～エクセレンスの設定～

設定：世界のエクセレンスの追求

- エクセレンスとは、世界最高水準の原子力の安全性、信頼性を確保するために、世界の原子力発電所で行われている良好な活動や、発電所に従事する所員や作業員の良好なふるまいのこと
- これらの良好事例をエクセレンスガイドラインとして取りまとめ、事業者が目指すべき姿として位置付け、評価・支援活動の基準として活用

国内外のエクセレンス	プラットフォーム	現場展開
INPO、WANO、EDF等 海外組織との連携・情報共有	JANSIワークショップ、 セミナー 良好事例の共有　等	JANSI評価手法の改善 JANSI活動の高度化
国内外発電所のベンチマーク （良好事例から学ぶ）など		
国内、国際アドバイザリー委員 からの助言	エクセレンスガイドライン （策定、改訂）	発電所へのエクセレンス展開 継続的改善の支援
国内他産業の動向調査		

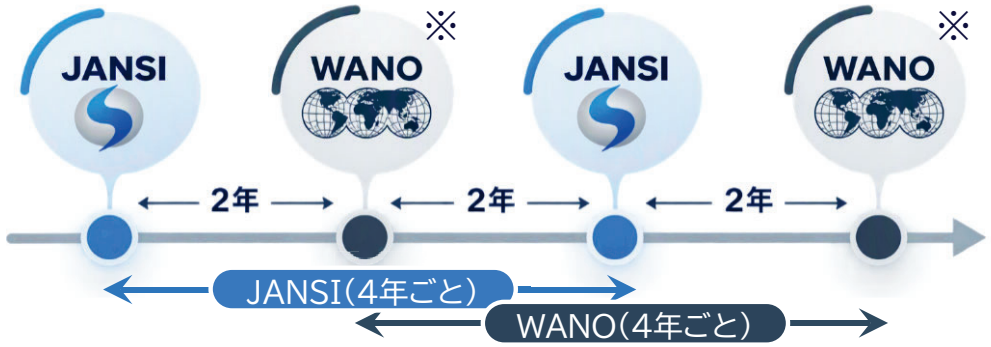
Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

2. JANSIの具体的活動 ～事業者を評価～

評価：ピアレビューの効果的・効率的実施

- 各分野の専門家が原子力施設の運営状況、設備の状態、安全文化の健全性、改善への取組み状況などを世界のエクセレンスと比較評価（4年ごと）
  - ⇒ JANSIとWANOが4年ごとにピアレビューを実施することで、すべての原子力発電所が2年ごとに包括的なレビューを受けている
- その結果を原子力事業者社長に直接報告

ピアレビュー実施サイクル



※JANSIは年1回程度WANOピアレビューを代替実施（ピアレビュー同等性の行使）

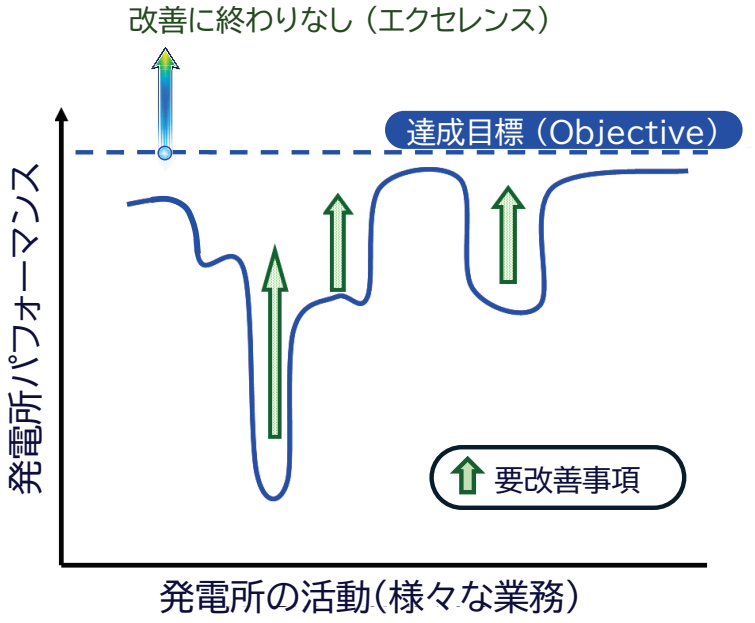
ピアレビューチーム

■総括代表　■チームリーダー

■各分野のレビュワー（国内外の電力関係者も参加）

組織・管理体制（OA）、運転（OP）、緊急時対応（EP）、保修（MA）、教育・訓練（TR）、化学（CY）、放射線防護（RP）、技術支援（ES）、火災防護（FP）、運転経験（OE）

エクセレンスとの比較による評価



Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

2. JANSIの具体的活動 ～事業者を評価～

評価：ピアレビューの効果的・効率的実施（続き）

（ピアレビューの活動フロー）

事前分析ほか → **現場レビュー**（約２週間、約30名） → **JANSI内部での評価会議** → **社長への報告** → **ピアプレッシャー**

- 発電所パフォーマンス情報分析
- 運転経験情報の活用
- トラブル情報の確認
- 過去レビュー結果の確認

- 現場観察（運転・保守等10分野）
- 管理職・担当者インタビュー
- 文書・記録の確認
- 発電所長への報告　他

- エクセレンスとの比較評価
- 課題や強みの抽出
- 背景要因の分析

- 評価結果の報告
- 課題や強みの報告

- 各社の課題・取組みを共有
- JANSI会議体（CNO/CEOセッション）で相互の刺激による改善の促進

現場観察



インタビュー



発電所長への報告



Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

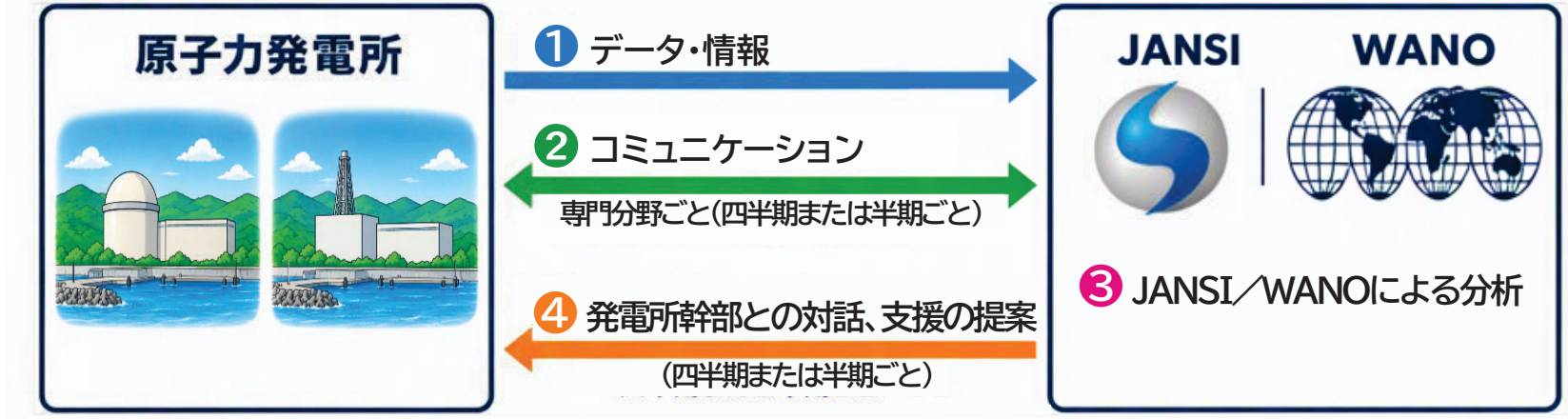
2. JANSIの具体的活動 ～事業者の改善を支援～

支援①：発電所の日常的パフォーマンス監視・評価（PMCM※）

※ Performance Monitoring & Continuous Monitoring

- 再稼働後の発電所を対象として、JANSIとWANOが共同で、ピアレビューとピアレビューの間のパフォーマンスを定期的にモニタリング
  ⇒ WANOとの情報共有協定により、発電所パフォーマンスを全方位的に把握
- 発電所パフォーマンスの状況を把握し、劣化の兆候を早期に発見し、良好なパフォーマンスを維持・向上するための支援

（PMCMの活動フロー）



❶
- 各種情報収集・分析
- パフォーマンス指標の確認
- 運転経験の活用状況
- 改善活動の進捗把握

❷
- 実際の状況確認
- 発電所訪問やWeb会議で各専門分野ごとにコミュニケーションを実施

❸
- 確認状況を分析

❹
- 発電所幹部との対話
- パフォーマンスを評価したレポート
- 必要に応じて改善支援を提案
- その他の有益な支援

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

2. JANSIの具体的活動 ～事業者の改善を支援～

支援②：安全文化醸成活動の支援

- 原子力事業者による主体的な安全文化醸成の取組みを支援する活動
- 発電所を対象とした安全文化アンケートやインタビューなどにより、組織文化の特徴を診断（安全文化アセスメント（発電所現場診断）：概ね4年ごと）
- 発電所を訪問し、安全講演会や安全教育の相互紹介や意見交換など

（安全文化アセスメント（発電所現場診断）の活動フロー）

事前調査	現場診断	分析・診立て	発電所長への報告 ⇒社長への報告
• 安全文化アンケート • 関連資料の確認 • 組織的特徴の把握	• 発電所長、幹部（一部本店幹部）、発電所員へのインタビュー • 多角的な情報収集	• 組織文化の分析 • パフォーマンスとの関係を考察 • 独立・客観的な診立て	• 組織の特徴を提示 • 強みや改善の機会を共有 • 自己認識と組織学習の契機を提供



安全講演会の風景

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.



2. JANSIの具体的活動 ～事業者の改善を支援～

支援③：運転経験情報の活用（OE活動）

- 国内外の運転経験情報※（事象や改善事例）を収集・分析し、重要な知見を抽出
  ※2025年度：国内 約200件、海外 約5,000件
- 重要度文書等を通じて事業者と知見を共有し、同様の事象の再発防止と安全性向上に活用することを支援
- 原子力規制庁と四半期ごとにOEに関する情報交換会を開催

（OE活動のフロー）

情報収集	分析・重要度評価	情報共有・水平展開	水平展開実施状況フォロー
•国内外のOE情報 •NUCIA※情報 •IAEA, NRC等の海外知見	•重要事例の選定 •影響評価 •教訓整理	•OE情報発信 •検討会・WG開催 •研修・セミナー実施	•適用状況確認 •未完了案件フォロー •良好事例共有

※ NUClear Information Archives（原子力施設情報公開ライブラリー）

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

2. JANSIの具体的活動 ～事業者の改善を支援～



支援④：リーダーシップ研修（人材とリーダーを育成）

- 原子力安全最優先の意識醸成と、リーダーシップ、コミュニケーションなどノンテクニカルスキルの習得
  （社長から管理職候補まで各層を対象に全11コース：年間 約200人受講）
- 事業者が実施する教育訓練（主にテクニカルスキル）を、より実効的にするために、SAT※導入・活用を支援

※ 業務に必要な知識・技能を明確にし、それに応じた教育訓練を体系的に行う仕組み（Systematic Approach to Training）

支援⑤：個別の発電所支援

- 長期停止発電所には、再稼働に向けた課題解決を支援するとともに、運転再開後も継続的に改善できる組織能力の向上を支援
- 発電所対応のJANSIの総合窓口となる代表者（SR）及び15専門分野におけるJANSIの発電所対応窓口（TCP）を通じて、発電所との日常的な対話を行い、改善活動をきめ細かく支援

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

3. 現状の課題認識

福島第一原子力発電所事故以降、原子力事業者は安全対策の強化、安全文化の向上、人材育成など、発電所の安全性向上に継続的に取り組んできた。JANSIは評価・支援活動を通じて、こうした事業者の改善を牽引・支援してきた。

- 共通課題　～JANSIの評価・支援活動からみえてきたもの～

1. 発見する力	2. 管理する力	3. 向上し続ける力
・課題を自ら見つけ、改善しきれているか	・現場リスクを自ら認識し、管理できているか	・人材育成と安全文化は、高い成果につながっているか

- 特定課題

浜岡原子力発電所の新規制基準適合性審査における基準地震動策定に係る不適切事案について、原子力産業界の信頼に関わる重大な事案と受け止めている。中部電力を安全文化（組織文化）の側面から支援するとともに、得られた教訓を、JANSIはもとより、原子力産業界全体の今後の活動に反映することが重要である。

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

4. 課題解決に向けた方策

- 原子力事業者が自ら課題を発見し、改善し続ける組織能力を高め、その基盤となる継続的改善文化を定着・深化させることが、さらに高い安全性とパフォーマンスの向上のために重要
  - ✓ 継続的改善文化は世界の原子力産業界共通の課題となっており、その実効性向上に向けた様々な議論や取組みが進められている
  - ✓ JANSIでは、継続的改善文化について、ピアレビュー、PMCM、安全文化醸成活動、OE活動、人材育成活動などの個別活動において、どのように有機的に結び付けていくか現在整理を進めている

- 浜岡原子力発電所の新規制基準適合性審査における基準地震動策定に係る不適切事案への対応
  - ✓ 中部電力の調査委員会報告書を事業者から独立した立場からレビューし、教訓を得る
  - ✓ 「独自の正当化理論」と「特異な広がり」の背景要因、ヘルプライン通報で立ち止まれなかったことに焦点を当てる

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.



世界最高水準の安全性の追求 ～たゆまぬエクセレンスの追求～

Copyright © 2026 by Japan Nuclear Safety Institute. All Rights Reserved.

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute